

健康診断・ 人間ドックガイド

保存版

検査内容・結果の理解のために

健康診断や人間ドックの
様々な検査項目について、
具体的な検査内容や測定値の解釈、
病気の可能性など
検査でわかることをまとめています。
ご自分の検査結果について、
より詳しく正しく理解するために
お役立てください。



はじめに

あなたの健康が家庭を守り、社会を支えます。

病気を予防する、また、病気を早期に発見し治療につなぐ健康診断の役割は、
これからますます重要になってきます。

加齢とともに、がんや生活習慣病のリスクは高くなってきます。

生涯で2人に1人は何らかのがんに罹患しますが、
がんも、早期発見できれば完治する時代になっています。恐れることはありません。
まずは年に1度の定期健康診断によって、自分の健康状態を確認しましょう。

健康であればそれを維持し、異常があれば生活習慣の改善などにより、
病気の発生を予防しましょう。

すべての病気の予防と早期発見は、あなたの健康を守ります。
一人ひとりの健康が、家庭を守り、社会を発展させる時代です。
健康診断と個別の人間ドックで、一億総健康を目指しましょう。

一般財団法人 淳風会
医療診療セクター セクター長

春間 賢



CONTENTS

健康診断と人間ドックの違い

健康診断とは？

どんな健康診断があるの？

- 3 一般健康診断
- 4 特定健康診断

人間ドックとは？

どんな人間ドックがあるの？

- 5 人間ドックの基本的な検査

基本的な検査項目

- 7 診察・腹囲・身体計測
- 8 BMI・血圧測定・聴力検査
- 9 視力・眼圧・眼底検査
- 10 肺機能検査・安静時心電図検査

血液検査項目

- 11 総コレステロール・中性脂肪
- 12 HDLコレステロール・nonHDLコレステロール・LDLコレステロール
- 13 空腹時血糖・HbA1c
- 14 総たんぱく量・アルブミン・AST/ALT
- 15 γ -GTP・ALP・総ビリルビン
- 16 乳酸脱水素酵素・コリンエステラーゼ・アミラーゼ
- 17 クレアチニン・尿素窒素・eGFR
- 18 尿酸・甲状腺ホルモン
- 19 赤血球数・ヘモグロビン・血清鉄
- 20 ヘマトクリット・白血球数・血小板数
- 21 白血球分類・MCV/MCH/MCHC
- 22 CRP・RF定量・女性更年期検査
- 23 HBs抗原・HCV抗体・ペプシノゲン
- 24 ヘリコバクター・ピロリ

尿・便検査項目

- 25 尿たんぱく・尿糖・尿潜血反応
- 26 尿沈渣・尿ウロビリノーゲン・便潜血検査

画像検査項目

- 27 胸部X線検査・胃部X線検査・腹部超音波検査
- 28 CT・PET・PET/CT・MRI・MRA

消化管内視鏡検査項目

- 29 胃内視鏡検査・大腸内視鏡検査
- 30 内視鏡センター

がん検査項目

- 31 胃がん検査・肺がん検査・大腸がん検査
- 32 前立腺がん検査・すい臓がんリスク検査・腫瘍マーカー
- 33 乳がん検査・子宮がん検査

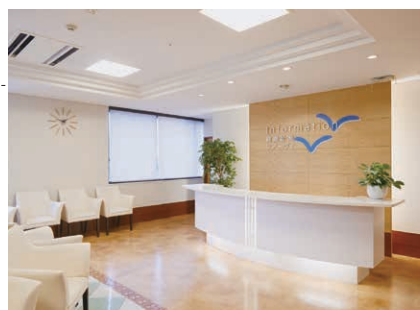
その他の検査項目

- 34 頭部検査・血管年齢チェック・骨密度測定検査
- 35 歯周疾患検査・ストレスチェック
- 36 LOX-Index・エクオール検査・腸内フローラ検査
- 37 基準値一覧

健康診断と人間ドックの違い

健康診断とは？

健康診断(健診)は、生活習慣病やがんをはじめ、様々な病気の早期発見・早期治療はもちろん、病気そのものを予防することを目的に行われています。自覚症状のないときに異常を見つけ、早期に予防や治療をすることで多くの病気は克服することができます。そのためには定期的な健診が重要です。



どんな健康診断があるの？

① 一般健康診断



労働安全衛生法で決められた法定健康診断であり、事業主が実施することが法律で義務付けられている健康診断が一般健康診断です(労働安全衛生規則第43~47条による)。

主な種類

- 定期健康診断
- 特定業務従事者健康診断
- 雇入時の健康診断
- 深夜業従事者の自発的健康診断など
- 海外派遣労働者健康診断

定期健康診断・雇入時の健康診断項目

- | | |
|---------------------|--------------------------------------|
| ① 既往歴および業務歴の調査 | ⑦ 尿検査(尿中の糖およびたんぱくの有無の検査) |
| ② 自覚症状および他覚症状の有無の検査 | ⑧ 肝機能検査(AST、ALT、γ-GTPなど) |
| ③ 身長・体重・腹囲・視力・聴力の検査 | ⑨ 血中脂質検査(LDLコレステロール、HDLコレステロール、中性脂肪) |
| ④ 胸部X線および喀痰検査 | ⑩ 血糖検査 |
| ⑤ 血圧の測定 | ⑪ 心電図検査 |
| ⑥ 貧血検査(赤血球数、血色素量) | |

定期健康診断については、以下の健康診断項目については、それぞれの基準に基づき、医師が必要でないと認める時には省略することができます。なお、「医師が必要でないと認める」とは、自覚症状および他覚症状、既往歴等を勘案し、医師が総合的に判断を言います。したがって、以下の省略基準については、年齢等により機械的に決定されるものではないことに留意してください。

項目	医師が必要でないと認める時に左記の健康診断項目を省略できる者
身長	20歳以上の者
腹囲	1. 40歳未満(35歳を除く)の者 2. 妊娠中の女性その他の者であって、その腹囲が内臓脂肪の蓄積を反映していないと診断された者 3. BMIが20未満である者[BMI(Body Mass Index)=体重(kg)/身長(m) ²] 4. BMIが22未満であって自ら腹囲を測定し、その値を申告した者
胸部X線検査	40歳未満のうち、次のいずれにも該当しない者 1. 5歳毎の節目年齢(20歳、25歳、30歳及び35歳)の者 2. 感染症法で結核にかかる定期的健康診断の対象とされている施設等で働いている者 3. じん肺法で3年に1回のじん肺健康診断の対象とされている者
喀痰検査	1. 胸部X線検査を省略された者 2. 胸部X線検査によって病変の発見されない者または胸部X線検査によって結核発病のおそれがないと診断された者
貧血検査、肝機能検査、血中脂質検査、血糖検査、心電図検査	35歳未満の者および36~39歳の者

法的定義	労働安全衛生法で1年に1回以上、健康診断を行うことが義務付けられています。そのため、定期健診が職場や、お住まいの自治体で定期的に行われます。
検査項目	糖尿病や高脂血症など生活習慣病リスクに関する検査が中心となります。
時間	検査内容は一般的なものとなり、短時間の受診で済みます。
費用	通常、会社で行う健診や、加入する健康保険組合での受診なら、無料か少ない額で済みます。国民健康保険では、費用の負担があります。

② 特定健康診査



法律により、医療保険者が40歳から74歳までの加入者(被保険者・被扶養者)を対象として、毎年度計画的に実施する内臓脂肪型肥満に対する健康診査です。全ての受診者様が受ける検査項目と、医師の判断により、貧血検査・心電図検査・眼底検査の3項目が加えられます。

※健診前には、食事制限、アルコール禁止、激しい運動を行わないなどの制限があります。

特定健康診査の結果、健康の保持に努める必要がある者に対しては、特定保健指導が行われます。

動機付け支援

生活習慣を振り返り、ライフスタイルに合った目標を設定し、**実行に移せるようなきっかけ作りを、保健師がお手伝いします。**

- ※内臓脂肪型肥満①で追加リスクが1つ
- ※内臓脂肪型肥満②で追加リスクが1つ~2つ

積極的支援

生活習慣を振り返り、ライフスタイルに合った目標を設定し、**実行を続けられるように保健師が継続的にサポートいたします。**

- ※内臓脂肪型肥満①で追加リスクが2つ
- ※内臓脂肪型肥満②で追加リスクが3つ以上

内臓脂肪型肥満

腹囲とBMIで内臓脂肪蓄積のリスクを判定します。

内臓脂肪型肥満①

腹囲：男性85cm以上
女性90cm以上

内臓脂肪型肥満②

腹囲：男性85cm未満、
女性90cm未満かつ
BMI25以上

[BMI指数計算方法]
=体重(kg)÷身長(m)²

腹囲	追加リスク		喫煙歴	対象		
	①血糖	②脂質		③血圧	40歳~64歳	65歳~74歳
85cm以上(男性) 90cm以上(女性)	2つ以上該当				積極的支援	動機付け支援
	1つ該当			あり	積極的支援	
上記以外で BMI値25以上	該当なし			なし	動機付け支援	情報提供
	3つ該当				積極的支援	
	2つ該当			あり	積極的支援	動機付け支援
	1つ該当			なし	動機付け支援	
該当なし					情報提供	

健康診断と人間ドックの違い

人間ドックとは？

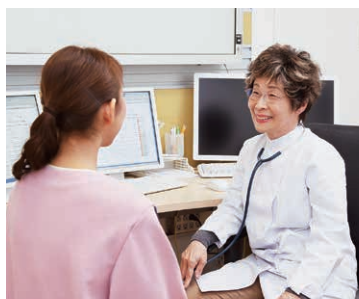
人間ドック(ドック健診)は、自覚症状の有無に関係なく、自分の健康状態に合わせて定期的に受診する健康診断です。身体各部位の精密検査を受けて、身体の各臓器の異常や健康度などをチェックします。必要であれば、医療機関を受診するか、経過を観察します。



どんな人間ドックがあるの？

人間ドックの基本的な検査

淳風会健康管理センターでは、年齢や性別と健康状態に合わせて、豊富な検査メニューの中から、最適なコースをご用意させていただきます。初めて受診される方も、落ち着いた環境で、安心してご利用ください。



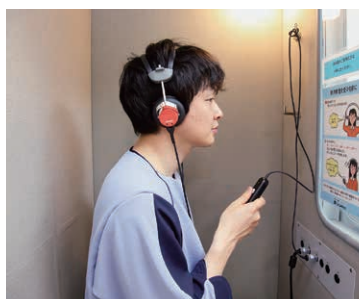
問診・内科診察



身体計測(腹囲測定含む)



血圧・脈拍



聴力(1000Hz、4000Hz)



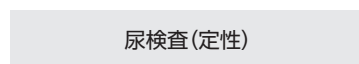
視力・眼圧・眼底



呼吸機能



便潜血(2日法)



尿検査(定性)



肝機能

法的定義	受診者様の希望・年齢・健康状態に応じて、検査項目を設定します。一般の健康診断よりも、検査項目がより専門的になり種類も多くなります。より総合的に精密な検査を受けたい方が任意で受診するため、健康保険の対象外となる場合が多くなります。
検査項目	健康診断よりも項目が多く、目的に合わせて選べたり、組み合わせたりできます(オプション項目)。
時間	総合的でより精密な検査となります。項目により半日から終日かかります。
費用	一般的な人間ドックは2万円~5万円程度で、CTやMRIなどの専門ドック項目を追加していくと検査費用が加算されます。



血液検査



安静時心電図



胸部X線



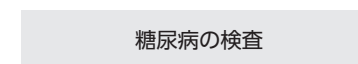
腹部超音波



胃部X線



腎機能



糖尿病の検査



脂質・尿酸の検査

健康診断と人間ドックの違い

基本的な検査項目

血液検査項目

尿・便検査項目

画像検査項目

消化管内視鏡検査項目

がん検査項目

その他の検査項目

基準値一覧

基本的な検査項目

診察

医師が状況を見るために、質問したり直接身体を調べたりします。

この検査でわかること

●総合的な身体の状態

◆問診

今までの状態（既往歴）や現在の状態（現病歴）、喫煙や飲酒などの嗜好をたずねます。

◆触診

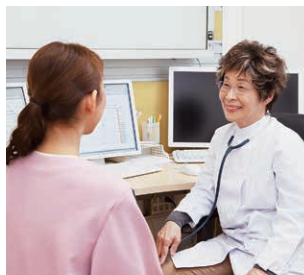
皮膚の色調、頸部、腹部などを診察します。

◆視診

目で見て心身の状態を診察します。

◆聴診

聴診器で、肺と心臓などの胸部の音を聴取します。



腹囲

お臍の高さでおなかの周囲の大きさを測ります。

この検査でわかること

●内臓脂肪の蓄積の程度

◆メタボリックシンドローム(症候群)

メタボリックシンドロームとは、metabolic=代謝、syndrome=症候群からきており、代謝異常症候群のことを言います。内臓脂肪の蓄積（内臓肥満）によって代謝異常が起きるようになり、動脈硬化につながっていきます。動脈硬化とは動脈が狭くなったり弾力を失ったりした状態を指します。動脈硬化が進行すると、狭心症や心筋梗塞、脳梗塞、腎不全や尿毒症といった病気や合併症を引き起こします。

	腹囲測定値	
	男性	女性
正常	85cm未満	90cm未満
要注意～異常	85cm以上	90cm以上

身体計測

身長・体重を測定します。

この検査でわかること

●ご自身の適正体重

[適正体重計算方法]=身長(m)×身長(m)× 22

適正体重は、一般に健康であり、生活習慣病になる率が低いとされている体重です。これより少し多いくらいは体力に余裕があるとも言えます。過度の肥満と過度の痩せは、そのとき病気がなくても健康な状態とは言えません。



身体計測による肥満度の判定、問診・診察による総合的な身体の状態チェック、血圧測定による生活習慣病のリスク確認、呼吸機能や心臓の状態など総合的に調べます。

BMI [Body Mass Index]

BMIは、体重と身長から計算し、肥満度を示す体格指数です。

この検査でわかること

●BMI値で肥満度の判定

[BMI値計算方法]=体重(kg)÷身長(m)²

基準範囲は18.5から24.9です。18.4以下は痩せ型、25以上は肥満型です。

日本肥満学会の判定基準(成人)

指標(BMI)	判定
18.5未満	低体重
18.5～25未満	普通体重
25～30未満	肥満(1度)
30～35未満	肥満(2度)
35～40未満※	肥満(3度)
40以上※	肥満(4度)

※BMI35以上を「高度肥満」と定義

血圧測定

血圧とは、血液の圧力によって血管壁が押される力のことで心臓から送り出される血液の量と血管の硬さによって決まります。

この検査でわかること

●血管の内側にかかる圧力値

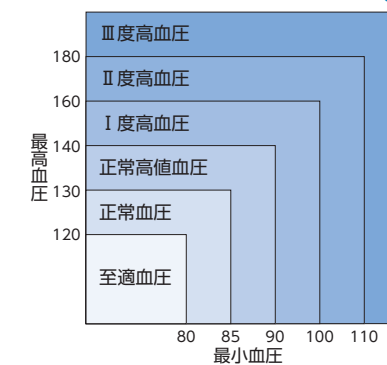
この検査で疑われる病気

- 高値の場合→高血圧症、動脈硬化症、腎臓や内分泌の異常
- 低値の場合→低血圧症、心不全



心臓の高さで測ります。

成人の血圧値の分類(単位:mmHg)



聴力検査

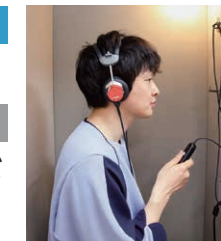
オーディオメーターを用いて検査し、ヘッドホンから音が聴こえたらボタンを押します。

この検査でわかること

●難聴、中耳炎など

この検査で疑われる病気

- 中耳炎、先天性難聴、騒音性難聴など



	両方聞こえる	どちらか一方聞こえる	どちらも聞こえない
1000Hz/30dB (低周波)	異常なし	異常あり	異常あり
4000Hz/40dB (高周波)	異常なし	異常あり	異常あり

健康診断と人間ドックの違い

基本的な検査項目

血液検査項目

尿便検査項目

画像検査項目

消化管内視鏡検査項目

がん検査項目

その他の検査項目

基準値一覧

基本的な検査項目

身体計測による肥満度の判定、問診・診察による総合的な身体の状態チェック、血圧測定による生活習慣病のリスク確認、呼吸機能や心臓の状態など総合的に調べます。

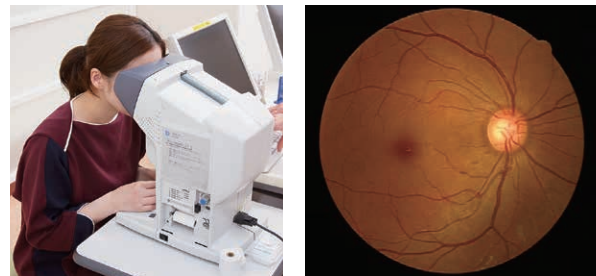
視力・眼圧・眼底検査



視力検査・眼圧検査・眼底検査を実施し、眼科疾患の診断に役立ちます。

この検査でわかること

- 目の病気、目の血管の状態



眼底イメージ

視力検査

専用検査機器を使用します。裸眼だけでなく眼鏡やコンタクトレンズを使用した状態でも検査可能です。

この検査で疑われる病気

- 近視、遠視、乱視など

眼圧検査

眼に空気を吹きかける眼圧計で測定します。

この検査で疑われる病気

- 眼圧が低い→網膜剥離、外傷など
- 眼圧が高い→緑内障、高眼圧症

眼底検査

カメラで眼底写真を撮影し、眼科や内科の病気の診断に使います。緑内障、糖尿病性網膜症、動脈硬化などの診断に役立ちます。

この検査で疑われる病気

- 緑内障、糖尿病網膜症などの眼科疾患、動脈硬化

	視力検査測定値
基準範囲	1.0以上
要注意	0.7~0.9
異常	0.6以下

	眼圧検査測定値 (単位: mmHg)
低眼圧	7未満
基準範囲	7~21
高眼圧	22以上

	眼底検査測定値 (S, H)
基準範囲	0
要注意	1, 2
異常	3, 4

Scheie分類 S: 動脈硬化性変化
H: 高血圧性変化

肺機能検査



息を吸ったり吐いたりして肺の大きさや息を吐く勢いなどを調べます。

◆肺活量

息をできるだけ吸い込みできるだけ吐き出した時の呼出量です。

◆%肺活量

身長、年齢、性別から求められた標準肺活量の何%にあたるかを%肺活量と言います。
[%肺活量 計算方法] = 実測肺活量 ÷ 標準肺活量 × 100

この検査で疑われる病気

- 肺線維症、間質性肺炎など

◆1秒量

努力して一気に吐き出す肺活量を努力性肺活量と言います。そのうち吐き始めの1秒間に呼出した量を1秒量と言います。

◆1秒率

努力性肺活量に対する1秒量の比を、1秒率と言います。
[1秒率(%) 計算方法] = 1秒量 ÷ 努力性肺活量 × 100

この検査で疑われる病気

- COPD(慢性閉塞性肺疾患)、喘息など

◆肺年齢

肺年齢は同年代の人と比較して1秒量がどの程度違うかを計算し、肺の老化度を表します。数値はあまり厳格ではありませんが参考になります。

[肺年齢計算方法] = ○男性 $0.036 \times \text{身長 (cm)} - 1.178 - 1\text{秒量} \div 0.028$ ○女性 $0.022 \times \text{身長 (cm)} - 0.005 - 1\text{秒量} \div 0.022$

この検査でわかること

- COPD(慢性閉塞性肺疾患)の重症度

安静時心電図検査



不整脈や心肥大、心筋梗塞、狭心症などの心臓病や心拍数を診断します。

この検査でわかること

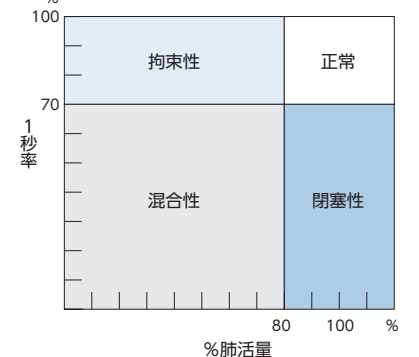
- 心臓の病気、血管の状態

心臓の筋肉が収縮するとき電気信号を発生します。これを記録したものが心電図です。電気を流している訳ではありませんので感電等の心配はありません。一般成人の脈拍数の正常値は50回/分から100回/分であり、50回より少ない場合を徐脈、100回より多い場合を頻脈と言います。有害な不整脈は治療の対象ですが、無害な不整脈も多く見られます。

虚血性心疾患は
日本人の死因第2位

狭心症、心筋梗塞をはじめとする虚血性心疾患は、がんに次いで日本人の死因第2位となっています。心電図検査で異常があったり糖尿病や高血圧症、脂質異常症と言われたことがある方は人間ドックでの詳しい検査をおすすめします。

肺の換気障害の分け方



健康診断と人間ドックの違い

基本的な検査項目

血液検査項目

尿便検査項目

画像検査項目

消化管内視鏡検査項目

がん検査項目

その他の検査項目

基準値一覧

血液検査項目

総コレステロール [Total Cholesterol]

コレステロールは、細胞膜を作り血管の維持にも働く人体には必要なものです。各種ホルモンや脂肪の分解を助ける胆汁酸を作ります。

この検査でわかること

- 動脈硬化、脳卒中、心筋梗塞リスクなど

この検査で疑われる病気

- 高値の場合→高コレステロール血症、動脈硬化症、脂質代謝異常、甲状腺機能低下症
- 低値の場合→栄養障害、低βリポたんぱく血症、肝硬変など

	総コレステロール測定値 (単位: mg/dL)
基準範囲	140~199
要注意	120~139 200~219
異常	119以下 220以上

中性脂肪 [TG、トリグリセライド]

中性脂肪は主に身体を動かすエネルギー源として重要であり、食事から吸収される脂肪の大部分を占め、すい液によって脂肪酸として体内に吸収され、中性脂肪として蓄えられます。炭水化物や脂肪分の多い食事のとりすぎ、アルコールの飲み過ぎ、運動不足などが原因で増加することから、メタボリックシンドロームの診断項目の1つになっています。

この検査でわかること

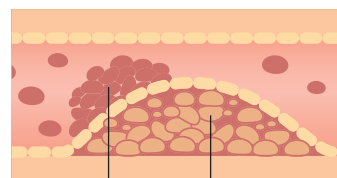
- 動脈硬化、メタボリックシンドロームリスクなど

この検査で疑われる病気

- 高値の場合→脂質異常症、動脈硬化症、脂肪肝、糖尿病など
- 低値の場合→低栄養など

	中性脂肪測定値 (単位: mg/dL)
基準範囲	30~149
要注意	150~299
異常	29以下 300以上

動脈硬化のしくみ



血栓 コレステロール

採取した血液の成分を調べることで、血液や血管だけでなく、全身の組織や臓器の状態がわかり、様々な身体の異常を知ることができます。

HDLコレステロール [高比重リポたんぱく質コレステロール High Density Lipoprotein Cholesterol]

HDLコレステロールは、血管壁など末梢に蓄積した過剰なコレステロールを取り除いて動脈硬化を予防する働きがあることから、善玉コレステロールと呼ばれます。HDLコレステロールに取り込まれたコレステロールは肝臓で処理されます。数値が高い場合は問題ありませんが、低い場合は生活習慣病がその原因となっていることがあります。

この検査でわかること

- 善玉コレステロール数値

この検査で疑われる病気

- 低値の場合→脂質異常症、動脈硬化症など

	HDLコレステロール測定値 (単位: mg/dL)
基準範囲	40以上
要注意	35~39
異常	34以下

nonHDLコレステロール

「nonHDLコレステロール」は、言葉通りHDLコレステロールではないコレステロールという意味で、動脈硬化の新しい指標となる数字で、次のような計算式で算出します。

$$(\text{総コレステロール}) - (\text{HDLコレステロール}) = (\text{nonHDLコレステロール})$$

善玉コレステロール以外の中性脂肪や、カイロミクロンなどの要素をすべて含んだ数字となります。肥満気味の人や中性脂肪が高い人、糖尿病の人は高くなる傾向にあるので注意が必要です。

この検査でわかること

- 動脈硬化リスク

この検査で疑われる病気

- 高値の場合→脂質異常症、動脈硬化症など

	nonHDLコレステロール測定値 (単位: mg/dL)
基準範囲	90~149
要注意	150~169
異常	89以下 170以上

LDLコレステロール [低比重リポたんぱく質コレステロール Low Density Lipoprotein Cholesterol]

LDLコレステロールは、悪玉コレステロールとも呼ばれ動脈硬化の最大の危険因子です。肝臓で生成されたコレステロールを全身に運ぶ役割がありますが、増えすぎると細胞内に取り込まれなくなったコレステロールを血管壁に貯め動脈硬化の原因となります。総コレステロールが正常でもLDLコレステロールの数値が高いと注意が必要です。

この検査でわかること

- 悪玉コレステロール数値

この検査で疑われる病気

- 高値の場合→脂質異常症、動脈硬化症、甲状腺機能低下症など
- 低値の場合→肝硬変、甲状腺機能亢進症など

	LDLコレステロール測定値 (単位: mg/dL)
基準範囲	60~119
要注意	120~139
異常	59以下 140以上

血液検査項目

採取した血液の成分を調べることで、血液や血管だけでなく、全身の組織や臓器の状態がわかり、様々な身体の異常を知ることができます。

空腹時血糖 [FBS, Fasting Blood Sugar]



健診などでは前夜からの絶食の状態です。高値の場合は糖尿病の可能性があります。健康な人では、食事により血糖値が上がると、すい臓から分泌されるインスリンというホルモンが血糖値を正常に下げる働きをします。しかし、糖尿病になると、インスリンが不足したり、その働きが低下するため、空腹時でも血糖値が高いまま維持され、糖尿病を引き起こします。

この検査でわかること

- 糖尿病リスクなど

	空腹時血糖測定値 (単位: mg/dL)
基準範囲	99以下
要注意	100~125
異常	126以上

HbA1c [ヘモグロビン・エーワン・シー]



血糖値は食事によって変動しますが、赤血球の中のたんぱくであるHbA1cはブドウ糖と結合しやすく、ある一定期間の血糖値の平均を反映します。従ってHbA1cの値から1か月間の血糖の平均的な値を推測することができるので、糖尿病の診断や管理に用いられます。

この検査でわかること

- 1か月の血糖の平均値

	HbA1c測定値 (単位: %)
基準範囲	5.5以下
要注意	5.6~6.4
異常	6.5以上

糖尿病について

生命を維持するための主要な食べ物である炭水化物は、体内でエネルギーとなる糖分を含みます。血液の中のブドウ糖の値を血糖値と言い、インスリンが一定の値にコントロールしています。インスリンの働きが低下すると血糖値が高くなり、糖尿病となります。糖尿病には小児や若年層で発症するI型糖尿病と中高年に多いII型糖尿病があります。初期では自覚症状が少なく気が付かないことが多いですが、放置し進行すれば、心筋梗塞、脳卒中、白内障、腎臓病、神経痛、感染症などを起こします。糖尿病とその予備群を合わせると約2,000万人、国民の約5人に1人となり、年々増加しています。

総たんぱく量 [Total Protein]



食事中のたんぱく質は、十二指腸で吸収されアミノ酸になり、肝臓に運ばれてアルブミン(約60%)とグロブリン(約40%)と言うたんぱく質になります。身体の維持には欠かせないたんぱく質であり、低栄養や肝臓病、ネフローゼなどで低下します。

この検査でわかること

- 血液中の総たんぱく数値

	総たんぱく測定値 (単位: g/dL)
基準範囲	6.5~7.9
要注意	6.2~6.4 8.0~8.3
異常	6.1以下 8.4以上

この検査で疑われる病気

- 高値の場合→慢性肝炎、肝硬変、多発性骨髄腫など
- 低値の場合→低栄養障害、ネフローゼ症候群など

アルブミン [Albumin]



肝臓で作られるたんぱく質で、栄養状態を反映します。食事がとれない、肝障害のためアルブミンを作れない、尿中に多量に出るなどの原因で、低栄養となると値が下がります。値が高い場合は、ほぼ問題ありません。

この検査でわかること

- 肝臓障害や栄養状態など

	アルブミン測定値 (単位: g/dL)
基準範囲	3.9以上
要注意	3.7~3.8
異常	3.6以下

この検査で疑われる病気

- 低値の場合→栄養障害、肝硬変、ネフローゼ症候群など

AST [GOT] / ALT [GPT]



どちらも肝細胞の中にあるトランスアミナーゼと言われる酵素で、肝細胞に障害があれば異常値を示します。ASTは肝細胞の他にも心筋や骨格筋にも含まれる酵素なので、肝臓以外の病気でも異常を示しますが、ALTはほとんどが肝臓にある酵素なので主に肝臓に異常があると上昇します。

この検査でわかること

- 肝臓の異常の有無
異常があれば、肝炎ウイルスの検査が必要

	AST[GOT] / ALT[GPT] 測定値(単位: U/L)
基準範囲	30以下
要注意	31~50
異常	51以上

この検査で疑われる病気

- AST ≥ ALT の場合→急性肝炎、肝硬変など
- AST ≤ ALT の場合→慢性肝炎、脂肪肝など
- ASTのみ高値 →心筋梗塞、多発性筋炎、溶血性貧血

血液検査項目

採取した血液の成分を調べることで、血液や血管だけでなく、全身の組織や臓器の状態がわかり、様々な身体の異常を知ることができます。

γ-GTP [ガンマグルタミルトランスペプチダーゼ]



γ-GTPは主に肝臓、すい臓、腎臓などに存在する解毒代謝に関する酵素です。肝胆道系に広く分布し、これらの部位障害ではALT、ASTと良く連動し上昇します。また閉塞性の黄疸でも上昇します。過度の飲酒により上昇するのでアルコール性肝障害の指標として用いられます。

この検査でわかること

- アルコール性肝障害の有無

この検査で疑われる病気

- 高値の場合→アルコール性肝障害、慢性肝炎、脂肪肝、薬物性肝障害、閉塞性黄疸など

	γ-GTP測定値 (単位: U/L)
基準範囲	50以下
要注意	51~100
異常	101以上

ALP [アルカリフォスファターゼ]



ALPは、肝臓、骨、小腸、腎臓などに含まれる酵素ですが、基準値を超えて出る場合ほとんどが肝臓からであり肝内胆汁うっ滞や閉塞性黄疸の場合増加します。通常、AST、ALT検査と同時に測定し、肝臓か骨の異常かを診断します。

この検査でわかること

- 肝臓や胆管の異常

この検査で疑われる病気

- 高値の場合→閉塞性黄疸、胆管炎、脂肪肝、薬物性肝障害、骨腫瘍など

	ALP測定値 (単位: U/L)
基準範囲	38~113
要注意	37以下 114~139
異常	140以上

総ビリルビン [Total Bilirubin]



ビリルビンは、赤血球中のヘモグロビンが壊れてできる黄色い色素です。肝臓で処理される前のものを間接ビリルビン、処理されたものを直接ビリルビンと言い、その総量を総ビリルビンと言います。溶血性黄疸では間接ビリルビンが増え、閉塞性黄疸では直接ビリルビンが増加します。

この検査でわかること

- 黄疸の有無、肝機能状態

この検査で疑われる病気

- 高値の場合→肝炎、肝臓がん、閉塞性黄疸、薬物性肝障害、溶血性貧血

	総ビリルビン測定値 (単位: mg/dL)
基準範囲	0.2~1.2
要注意	0.1以下 1.3~2.5
異常	2.6以上

乳酸脱水素酵素 [LDH]



乳酸脱水素酵素は、身体の全ての細胞に存在しますが、特に肝臓、心筋、骨格筋の組織に障害が起こったときに高値を示します。急性肝炎や肝臓がん、心筋梗塞、肝硬変、筋ジストロフィーで上昇します。どこの臓器の障害で増えたかをアイソザイムで調べることができます。

この検査でわかること

- 肝臓、心筋、骨格筋の異常

この検査で疑われる病気

- 高値の場合→急性・慢性肝炎、心筋梗塞、がん、白血病など
- 低値の場合→まれに低栄養など

	乳酸脱水素酵素測定値 (単位: U/L)
基準範囲	124~222
要注意	123以下 223~246
異常	247以上

コリンエステラーゼ [ChE]



コリンエステラーゼは肝細胞で作られる酵素の1つで、肝臓に異常があると早期に変動する酵素です。ネフローゼ症候群や甲状腺機能亢進症では肝臓での合成が亢進するので高値となり、慢性肝炎や肝障害、低栄養では低下します。

この検査でわかること

- 肝臓の異常

この検査で疑われる病気

- 高値の場合→脂肪肝、糖尿病、ネフローゼ症候群など
- 低値の場合→肝硬変、悪性腫瘍、栄養障害など

	コリンエステラーゼ測定値 (単位: U/L)	
	男性	女性
基準範囲	240~486	201~421
要注意	239以下 487~547	200以下 422~475
異常	548以上	476以上

アミラーゼ [Amylase]



すい臓は、でんぷんなどを分解するアミラーゼなどの消化酵素を分泌しています。急性すい炎などでは、激しい腹痛と共に血液中、尿中のアミラーゼが上昇します。アミラーゼには唾液腺に由来するものがあるのでその鑑別が必要ですが、症状などで診断可能です。

この検査でわかること

- すい臓の状態

この検査で疑われる病気

- 血清・尿ともに高値→急性すい炎、慢性すい炎の増悪期、すい臓がん、すいのう胞、耳下腺炎、胃・十二指腸潰瘍、腹膜炎、腸閉塞など
- 血清だけが高値 →マクロアミラーゼ血症、腎不全、高唾液腺型アミラーゼ血症など
- 血清・尿ともに低値→腎臓病末期、肝硬変、重度の糖尿病など

	アミラーゼ測定値 (単位: U/L)
基準範囲	44~132
要注意	43以下 133~153
異常	154以上

血液検査項目

採取した血液の成分を調べることで、血液や血管だけでなく、全身の組織や臓器の状態がわかり、様々な身体の異常を知ることができます。

クレアチニン [Cr]



クレアチンは、筋肉が分解された代謝物の1種であり腎臓から排泄されます。腎臓の機能が正常であれば尿に排泄されますが、腎機能に障害があると、十分に排泄できなくなり、血液中に増えてきます。腎機能低下があると上昇し、妊娠や糖尿病では低下します。筋肉量が少ない人や女性は低くなります。

この検査でわかること

- 腎機能の状態

この検査で疑われる病気

- 高値の場合→慢性腎炎、腎機能障害

	クレアチニン測定値 (単位: mg/dL)	
	男性	女性
基準範囲	0.40~1.00	0.40~0.70
要注意	0.39以下 1.01~1.29	0.39以下 0.71~0.99
異常	1.30以上	1.00以上

尿素窒素 [BUN, Blood Urea Nitrogen]



尿素窒素はエネルギーとなるたんぱく質が分解されるときにできる終末代謝物質であり、肝臓で作られ腎臓から尿中に排泄されます。たんぱく質の摂取量や代謝、腎機能によって排泄量が変わります。

この検査でわかること

- 腎機能の状態

この検査で疑われる病気

- 高値の場合→腎機能障害、消化管出血、脱水症状など
- 低値の場合→低栄養、妊娠など

	尿素窒素測定値 (単位: mg/dL)
基準範囲	7~24.9
要注意	6.9以下 25.0~25.9
異常	26.0以上

eGFR [推算糸球体ろ過量]



腎臓が老廃物を尿へ排泄する能力を調べる検査で、慢性腎臓病 (CKD) の診断に用いられます。血清クレアチニン値と年齢、性別から計算します。

この検査でわかること

- 腎臓の老廃物排泄能力

この検査で疑われる病気

- 低値の場合→慢性腎臓病 (CKD)

	eGFR判定値 (単位: mL分/1.73m ²)
基準範囲	60.0以上
要注意	45.0~59.9 ※たんぱく尿が陽性なら CKDの疑い
異常	44.9以下

尿酸 [UA]



プリン体を多く含む食品やアルコールのとりすぎにより、血中の尿酸の濃度が高くなります。高尿酸血症になると、尿酸が結晶化して足やひざの関節に溜まって、尿酸結節を作り、赤くはれ激痛を伴う痛風発作を起こします。また、腎臓に尿酸が溜まると痛風腎となり、腎機能が低下します。

この検査でわかること

- 腎機能、痛風リスクなど

この検査で疑われる病気

- 高値の場合→高尿酸血症、痛風、腎不全、白血病など

	尿酸測定値 (単位: mg/dL)
基準範囲	2.1~7.0
要注意	2.0以下 7.1~7.9
異常	8.0以上

甲状腺ホルモン [FT4, FT3]



脳下垂体から分泌される甲状腺刺激ホルモン(TSH)は、甲状腺ホルモンの分泌の過不足をコントロールしています。バセドウ病などの甲状腺機能亢進症で甲状腺ホルモンが高いときはTSHは低く、橋本病などの甲状腺機能低下症で甲状腺ホルモンが低いときにはTSHは高くなります。

遊離サイロキシシン(FT4)

甲状腺から分泌されるホルモンでヨードが4個結合したものです。たんぱく質と結合していないものを遊離サイロキシシン (FT4) と言います。

遊離トリヨードサイロキシシン(FT3)

FT4から作られるものでヨードが3個結合しています。全身への影響はFT3が強く働きます。

	FT4測定値 (単位: ng/mL)
基準範囲	0.70~1.48
要注意	0.51~0.69 1.49~1.67
異常	0.5以下 1.68以上

この検査でわかること

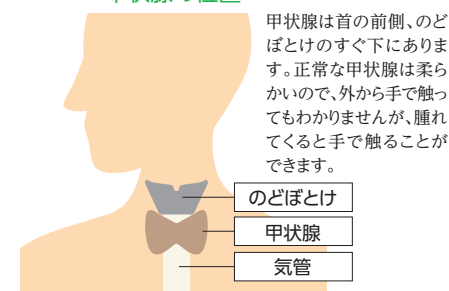
- 甲状腺の異常

この検査で疑われる病気

- 高値の場合→甲状腺機能亢進症、亜急性・無痛性甲状腺炎など
- 低値の場合→甲状腺機能低下症、肝硬変、低たんぱく血症など

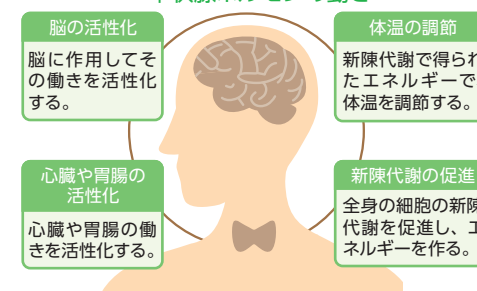
	FT3測定値 (単位: pg/mL)
基準範囲	1.68~3.67
要注意	1.22~1.67 3.68~4.20
異常	1.21以下 4.21以上

甲状腺の位置



甲状腺は首の前側、のどぼとけのすぐ下にあります。正常な甲状腺は柔らかいので、外から手で触ってもわかりませんが、腫れてくると手で触ることができます。

甲状腺ホルモンの動き



甲状腺ホルモン(FT4、FT3)には身体の発育を促進し、新陳代謝を盛んにする働きがあります。つまり、活動するために必要なエネルギーを作り、快適な生活を送るためになくってはならないホルモンです。

血液検査項目

赤血球数 [RBC]



赤血球は、全身の組織に酸素を運び二酸化炭素を取り出す「ガス交換」を行います。減少すると貧血になり、酸素不足で疲れやすくなります。増えすぎると多血症となります。

この検査でわかること

- 貧血の有無

この検査で疑われる病気

- 高値の場合→多血症
- 低値の場合→貧血（悪性貧血など）

	赤血球数測定値 (単位：万/μL)	
	男性	女性
基準範囲	410~550	370~500
要注意	370~409 551~629	340~369 501~569
異常	369以下 630以上	339以下 570以上

ヘモグロビン [血色素、Hb]



赤血球の中にあるヘモグロビンは、酸素と結合して組織に酸素を運びます。赤血球が減ればヘモグロビンも減りますが、赤血球は減らなくてもヘモグロビンが減少すると貧血を起こします。貧血で青白くなる原因は、このヘモグロビンが減少するためです。

この検査でわかること

- 貧血の有無

この検査で疑われる病気

- 高値の場合→多血症
- 低値の場合→鉄欠乏性貧血、再生不良性貧血など

	ヘモグロビン測定値 (単位：g/dL)	
	男性	女性
基準範囲	13.1~16.3	12.1~14.5
要注意	12.6~13.0 16.4~18.0	11.6~12.0 14.6~16.0
異常	12.5以下 18.1以上	11.5以下 16.1以上

血清鉄 [Fe]



体内の鉄分はヘモグロビンの合成に不可欠な成分です。血液中の鉄分が低値の場合は鉄欠乏性貧血が疑われます。

この検査でわかること

- 貧血の有無

この検査で疑われる病気

- 高値の場合→再生不良性貧血、ヘモクロマトーシス、急性肝炎など
- 低値の場合→鉄欠乏性貧血、がんなど

	血清鉄測定値 (単位：μg/dL)	
	男性	女性
基準範囲	72~165	54~145
要注意	70~71 166~199	50~53 146~179
異常	69以下 200以上	49以下 180以上

採取した血液の成分を調べることで、血液や血管だけでなく、全身の組織や臓器の状態がわかり、様々な身体の異常を知ることができます。

ヘマトクリット [Ht]



ヘマトクリットは血液中に含まれている赤血球の割合を示します。値が低いと貧血であり、高いと血液の濃縮が疑われます。

この検査でわかること

- 貧血の有無

この検査で疑われる病気

- 高値の場合→多血症、脱水症状
- 低値の場合→貧血（再生不良性貧血、鉄欠乏性貧血など）

	ヘマトクリット測定値 (単位：%)	
	男性	女性
基準範囲	40.0~50.9	35.0~45.9
要注意	37.0~39.9 51.0~59.9	33.0~34.9 46.0~54.9
異常	36.9以下 60.0以上	32.9以下 55.0以上

白血球数 [WBC]



白血球は種類によってそれぞれ働きは異なりますが、体内に入ってくる微生物、細菌、ウイルスなどから身体を守る働きがあります。白血球数が増えている場合には、どこかに炎症がある可能性があり、白血病では異常高値となります。

この検査でわかること

- 炎症の有無

この検査で疑われる病気

- 高値の場合→白血病、細菌感染、心筋梗塞、虫垂炎
- 低値の場合→抗がん剤などの副作用、悪性貧血、薬剤アレルギーなど

	白血球数測定値 (単位：個)	
	男性	女性
基準範囲	3,100~8,499	
要注意	8,500~9,999	
異常	3,099以下 10,000以上	

血小板数 [PLT]



血小板には、血液を固まらせて出血を止める働きがあります。血小板の数が少なくなったり、機能が低下すると、血が止まりにくくなります。多すぎると血管が詰まる可能性があります。

この検査でわかること

- 出血傾向の有無

この検査で疑われる病気

- 高値の場合→血小板血症、慢性骨髄性白血病
- 低値の場合→急性白血病、膠原病、免疫性血小板減少症など

	血小板数測定値 (単位：万/μL)	
	男性	女性
基準範囲	14.5~32.9	
要注意	12.3~14.4 33.0~39.9	
異常	12.2以下 40.0以上	

血液検査項目

採取した血液の成分を調べることで、血液や血管だけでなく、全身の組織や臓器の状態がわかり、様々な身体の異常を知ることができます。

白血球分類

血液中の白血球は好中球、好酸球、好塩基球、単球、リンパ球などの種類があり、その血液中の割合や増減を調べることで、感染症やアレルギー疾患などの病気を判別することができます。

この検査でわかること

- 感染症やアレルギー疾患

この検査で疑われる病気

好中球

- 高値の場合 → 急性細菌性感染症など
- 低値の場合 → ウイルス性疾患、急性白血病

好酸球

- 高値の場合 → アレルギー性疾患など

好塩基球

- 高値の場合 → アレルギー性疾患、甲状腺機能低下症、慢性骨髄性白血病など

単球

- 高値の場合 → 発疹性感染症、慢性肝炎など

リンパ球

- 高値の場合 → ウイルス性感染症など
- 低値の場合 → 悪性リンパ腫、全身性エリテマトーデスなど

好中球測定値 (単位: %)	
基準範囲	40~75
異常	39.9以下 75.1以上
好酸球測定値 (単位: %)	
基準範囲	0~8.0
異常	8.1以上
好塩基球測定値 (単位: %)	
基準範囲	0~3.9
異常	4.0以上
単球測定値 (単位: %)	
基準範囲	0~12.4
異常	12.5以上
リンパ球測定値 (単位: %)	
基準範囲	19.6~55.4
異常	19.5以下 55.5以上

MCV/MCH/MCHC

赤血球数、ヘモグロビン、ヘマトクリットの測定値からMCV (平均赤血球容積=赤血球の体積)、MCH (平均赤血球ヘモグロビン量=赤血球に含まれる色素量)、MCHC (平均赤血球ヘモグロビン濃度=赤血球体積に対する色素量の割合) と言う赤血球指数を算出し、貧血の種類を診断します。

この検査でわかること

- 貧血の種類

この検査で疑われる病気

- MCV が高値で MCHC が正常の場合 → ビタミン B12 欠乏性貧血 (胃切除後に多い)、葉酸欠乏性貧血、過剰飲酒など
- MCV、MCHC とともに正常で MCH に異常がある場合 → 再生不良性貧血、溶血性貧血、腎性貧血、急性出血など
- MCV、MCHC とともに低値の場合 → 鉄欠乏性貧血、鉄芽球性貧血、慢性炎症など

MCV測定値 (単位: fl)	
基準範囲	84~98
異常	83以下 99以上
MCH測定値 (単位: pg)	
基準範囲	26~35
異常	25以下 36以上
MCHC測定値 (単位: %)	
基準範囲	31~37
異常	30以下 38以上

CRP [C反応性たんぱく]

CRPはたんぱく質の1種で、感染症などによる炎症があるとき早期に増加します。

この検査でわかること

- 感染症などによる炎症の有無

この検査で疑われる病気

- 高値の場合 → 細菌・ウイルス感染症、リウマチ熱、関節リウマチ、がん、心筋梗塞など

CRP 測定値 (単位: mg/dL)	
基準範囲	0~0.30
要注意	0.31~0.50
異常	0.51以上

RF定量 [リウマトイド因子]

関節リウマチのときは値が高くなります。

この検査でわかること

- 関節リウマチの有無

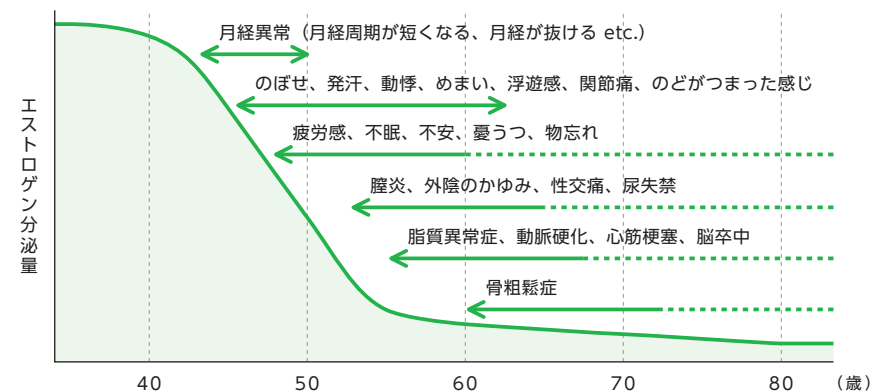
この検査で疑われる病気

- 高値の場合 → 関節リウマチなど

RF 測定値 (単位: U/mL)	
基準範囲	0~15
異常	16以上

女性更年期検査

血液による更年期障害の検査です。血液中の卵巣ホルモンと下垂体の卵胞刺激ホルモンの値により、冷えやのぼせ、無気力などの更年期障害症状を調べます。45歳~50代の女性におすすめです。次のような症状が出たら一度ホルモン検査を受診されるとよいでしょう。



参考資料：ヘルスケアラボ(厚生労働省)

血液検査項目

HBs抗原



B型肝炎の感染の有無を調べる検査です。HBs抗原が陽性の場合、B型肝炎ウイルスに感染していることがわかります。B型肝炎を発症している場合と、無症候性キャリアの場合があります。

この検査で疑われる病気

- B型肝炎

HCV抗体



C型肝炎の感染の有無を調べる検査です。HCV抗体検査が陽性であれば、さらに詳しい検査が必要です。長い経過で、肝硬変から肝臓がんに進むことがあります。

この検査で疑われる病気

- C型肝炎

ペプシノゲン [PG]



胃には胃酸の働きにより消化酵素ペプシンになるペプシノゲンという物質があります。萎縮性胃炎によりペプシノゲンの産生は減少しますので、血液中のペプシノゲンを測定することによって萎縮性胃炎があるかどうかわかります。萎縮性胃炎が強いほど胃がんになりやすいことがわかっています。

この検査でわかること

- 萎縮性胃炎(胃の老化現象)

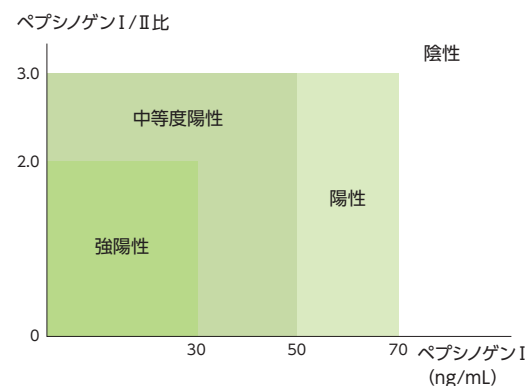
この検査で疑われる病気

- 陽性の場合→胃がん、胃・十二指腸潰瘍、萎縮性胃炎

ペプシノゲン法(判定)

萎縮の進展に伴いペプシノゲンIおよびペプシノゲンI/II比が低下することから、胃粘膜萎縮を簡便な血液検査で客観的に評価します。

ペプシノゲンI ≤ 70ng/mL かつ
ペプシノゲンI/II比 ≤ 3.0
↓
ペプシノゲン法 陽性



採取した血液の成分を調べることで、血液や血管だけでなく、全身の組織や臓器の状態がわかり、様々な身体の異常を知ることができます。

ヘリコバクター・ピロリ



ヘリコバクター・ピロリは通称ピロリ菌と呼ばれ、胃の粘膜に感染しているかを調べます。ピロリ菌に感染すると、抗体が作られ血液検査で感染があることがわかります。除菌後も抗体は陽性にとどまることがあるので、除菌の判定にはなりません。ピロリ菌への感染は、慢性萎縮性胃炎となり胃がんの発生率が高くなります。

この検査でわかること

- ピロリ菌感染の有無

この検査で疑われる病気

現在または過去のピロリ菌感染

ピロリ菌除菌方法

1種類の「胃酸の分泌を抑える薬」と2種類の「抗菌薬」の合計3剤を服用します。1日2回、7日間服用する治療法です。正しく薬を服用すれば1回目の除菌療法の成功率は約90%とされています。

胃がんリスク層別化検査(ABC分類)

血液検査で胃がんリスクがわかります。

		ヘリコバクター・ピロリ抗体	
		陰性	陽性
ペプシノゲン法	陰性	A群	B群
	陽性	C群	

A群の方

- おおむね健康的な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いです。
- 逆流性食道炎などピロリ菌に関連しない病気に注意が必要です。
- 未感染の可能性が高いが、一部にはピロリ菌の感染や感染の既往がある方が含まれます。
- 1度は内視鏡検査等の画像検査を受けることが理想的です。

B群の方

- 少し弱った胃粘膜です。
- 胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意が必要です。胃がんのリスクもあります。
- 内視鏡検査を受けましょう。
- ピロリ菌の除菌治療をおすすめします。

C群の方

- 萎縮の進んだ弱った胃粘膜であり、胃がんになりやすいタイプと考えられます。
- 定期的な内視鏡検査をおすすめします。
- ピロリ菌の除菌治療をおすすめします。

尿・便検査項目

尿たんぱく



腎臓に障害が起こると、尿中にたんぱく質が排出されます。正常でも微量に出ますが、他の検査と比較して、異常か否かを判断します。

この検査でわかること

- 腎臓の異常

この検査で疑われる病気

- 糸球体腎炎、糖尿病腎症、ネフローゼ症候群、妊婦高血圧症候群など

	尿たんぱく判定
基準範囲	陰性 (-)
要注意	弱陽性(±) 陽性(+)
異常	陽性(2+以上)

尿糖



血液中のブドウ糖が尿中に出てきたものです。
血液中のブドウ糖が高い場合と腎機能障害による場合があります。

この検査でわかること

- 腎臓の異常

この検査で疑われる病気

- 糖尿病、腎性糖尿など

	尿糖判定
基準範囲	陰性 (-)
異常	陽性 (+)

尿潜血反応



尿中に血液が出ると、尿潜血反応が陽性になります。女性では月経中には尿に血液が混ざりやすいため、月経の有無を確認します。還元作用があるビタミンCを服用していると陽性にならないことがありますのでご注意ください。

この検査でわかること

- 腎臓、膀胱の異常

この検査で疑われる病気

- 糸球体腎炎、膀胱炎、尿路結石、尿路腫瘍など

	尿潜血判定
基準範囲	陰性(-)
要注意	弱陽性(±) 陽性(+)
異常	陽性(2+以上)

尿検査では、腎臓、膀胱、肝臓などの病気を発見することができます。
また、便を調べることで、消化管内の出血の有無がわかります。

尿沈渣



尿を遠心分離器にかけ沈殿した固形成分を調べます。種類と数によって病気の診断の参考になります。

この検査でわかること

- 腎臓障害の種類

この検査で疑われる病気

- 赤血球が多い →腎臓や尿路の炎症・結石・腫瘍、のう胞腎など
- 白血球が多い →腎臓や尿路の感染・炎症など
- 上皮細胞が見られる →尿路の炎症、腫瘍
- 特殊円柱細胞が見られる →腎炎、ネフローゼ症候群

	赤血球	白血球	上皮細胞	特殊円柱細胞	結晶成分
基準範囲	1視野に1個以内	1視野に3個以内	1視野に少数	1視野に陰性(-)	1視野に数量

尿ウロビリノーゲン



胆汁中のビリルビンが腸内細菌によって分解されると、ウロビリノーゲンになります。ウロビリノーゲンの大部分は便と共に排泄され、残りは腸から肝臓に戻って胆汁の成分になります。しかし肝臓の異常で再処理できないと、尿中に多く出てくるようになります。

この検査でわかること

- 肝臓の異常

この検査で疑われる病気

- 陽性(+)の場合 →肝臓障害、溶血性貧血、便秘など
- 陰性(-)の場合 →抗菌薬の長期使用、胆道閉塞など

	尿ウロビリノーゲン判定
基準範囲	弱陽性(±)
異常	陰性(-) 陽性(+)

便潜血検査 [便潜血反応2日法]



大腸からの出血の有無を調べます。通常は免疫学的検査法を行っていますので、大腸からの出血は陽性に出ますが、胃からの出血は判定できません。
陽性反応が出たら、必ず大腸内視鏡検査などの詳細な検査が必要です。痔、良性ポリープなどでも陽性になりますが、必ず大腸がんの有無を調べなければなりません。

この検査でわかること

- 大腸の異常

この検査で疑われる病気

- 大腸がん、大腸ポリープ、潰瘍性大腸炎、痔

	便潜血判定
基準範囲	2回とも陰性(-)
異常	1回でも陽性(+)

画像検査項目

各種専門機器を用いて身体内部の構造や変化を調べます。

胸部X線検査



肺、心臓血管、骨格や筋肉などの変化や病気を知ることができます。できるだけ大きく息を吸い込んで撮影します。肺がん、肺炎、肺結核、気管支炎など多くの胸の病気の診断をします。

❗ 成人同様、妊婦や小児でも1回のX線検査では放射線による障害はないとされています。しかし、健診であれば妊娠期間を避けたほうが心配がないでしょう。

この検査でわかること

●呼吸器、循環器の異常

この検査で疑われる病気

●呼吸器異常→肺結核、肺炎、肺がん、肺気腫、肺線維症、気管支炎
●循環器異常→心臓肥大、心不全、大動脈硬化症



胃部X線検査



胃部X線検査では、造影剤(バリウム)と発泡剤を飲んで検査します。

❗ 造影剤バリウムを飲んで検査します。むせたり便秘を悪化させることがあります。慢性的な便秘症があれば注意が必要です。検査台に立てない人やマイクの声が聞こえない人には、特別な注意が必要となりますので必ず検査の前にお申し出ください。

この検査でわかること

●消化器の異常

この検査で疑われる病気

●食道・胃・十二指腸のがん、ポリープ、潰瘍など



腹部超音波検査 [腹部エコー]



腹部に超音波検査のプローブ(探触子)を当てながら、反射してくる超音波を捉えてお腹の内部を検査する方法です。刺激はないので、痛みや熱、音などは感じず、他の臓器に障害を起こすことはありません。

この検査でわかること

●内臓異常の有無

この検査で疑われる病気

●肝臓→肝臓がん、肝硬変、脂肪肝、肝内結石、肝のう胞など
●胆のう→胆管結石、胆のう結石、胆管がん、胆のうがん、胆のうポリープなど
●腎臓→腎結石、腎臓がん、腎のう胞など
●すい臓→すい炎、すい臓がん、すいのう胞など
●子宮・卵巣→子宮筋腫、子宮がん、卵巣がんなど



CT [コンピューター断層撮影]



身体の周囲を360度回転しながらX線照射し、できた画像をコンピューター解析により体内をスライスしたような断面画像にして見ることができる検査です。装置が螺旋状に移動し連続的に撮影するヘリカルCTは、通常のCT検査よりも精度が高く、検査時間も短く済みます。全身の検査に利用されますが、特に肺がんやCOPD(慢性閉塞性肺疾患)などの呼吸器の精密検査に効果を発揮しています。

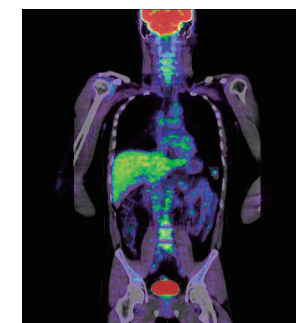
この検査でわかること

●呼吸器、消化器などの異常
●頭部、胸部、腹部、骨盤部など身体全体の状態

PET PET/CT [コンピューター断層撮影]



PET(陽電子放射断層撮影)は、放射性物質を体内に入れ、身体のどの臓器に集まるかを検出する検査です。脳や心臓の検査の他、全身の各種がんの診断に効果を発揮します。がんの形や大きさを調べる従来の画像診断に対し、PETはがんの活動や悪性の度合いなどを調べることができます。また、他の検査で見付けにくい病変を発見できることも少なくありません。ただし、胃がん、腎臓がん、尿管がん、膀胱がん、前立腺がんなど、一部のがんでは効果が低いと言われています。CTと組み合わせると画像診断の精度が高くなりますが、CT検査によるX線被ばくがあります。



診断結果イメージ

この検査で疑われる病気

●各種がん、てんかん、認知症

隣接する岡山画像診断センターに委託 〒700-0913 岡山市北区大供2-3-25

MRI・MRA [磁気共鳴撮影]



磁気を利用して体内の臓器を画像化するのがMRI検査です。痛みを伴わず、X線を使用しないため、身体への負担はほとんどありません。鮮明な画像を得ることができますが、検査時間が比較的長く、大きな音があるのが特徴です。

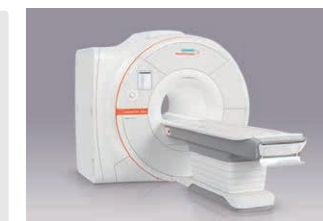
通常のMRI(磁気共鳴断層撮影)や血管撮影を目的としたMRA(磁気共鳴血管撮影)などがあります。MRI検査はX線被ばくがありませんが、金属を身に付けている、手術を受けてクリップが体内にある、入れ墨がある(色素が鉄を含んでいるため)、閉所恐怖症があるなどMRI検査を受けられない場合があります。

MRI [磁気共鳴断層撮影]

身体を縦、横、斜め、自由な角度にスライスした画像を映し出す検査です。スライス間隔はミリ単位にできるので、連続して撮影し異常が疑われる部分を確認できます。

MRA [磁気共鳴血管撮影]

血管の構造を立体画像化し、血管の異常を発見する検査です。数ミリの動脈瘤を発見することもできます。



画像提供：ドイツ シーメンスヘルスケア株式会社

消化管内視鏡検査項目

内臓や体腔内部にスコープを直接入れて観察する検査です。
胃、大腸など、調べる部位によって様々なタイプのスコープがあります。

胃内視鏡検査 [胃カメラ]



口または鼻から内視鏡スコープをいれて、食道・胃・十二指腸を直接見ながら検査をします。内部を直接見ながら検査するので、早期がんを発見することが可能であり、異常があれば粘膜を一部採取して組織検査に出します。必要な時は、がんに関連の深いピロリ菌の有無を検査します。

! 当日の朝食は、絶食としますが水分の摂取は可能です。
医師の許可があれば日頃から飲んでいる薬は、当日朝も服用することができます。

この検査でわかること

- 胃の炎症・潰瘍・がん・ポリープの有無

この検査で疑われる病気

- 食道・胃・十二指腸の炎症、潰瘍、ポリープ、がん



大腸内視鏡検査



肛門から内視鏡スコープを入れて大腸全体を直接観察し、必要があれば組織検査を行います。ポリープやがんなどの早期発見につながります。

! 当日は、2リットルの検査用下剤を約2時間かけて飲み、きれいな水様便になってから検査を行います。

この検査でわかること

- 大腸の炎症・潰瘍・がん・ポリープの有無

この検査で疑われる病気

- 大腸の炎症、潰瘍、ポリープ、がん、憩室など



〈内視鏡センターのご案内〉

淳風会健康管理センターと、同一法人の淳風会ロングライフホスピタルに
内視鏡センターを設置し、検査を実施しております。
経験豊富な多数の医師がお待ちしておりますので、検査をご希望の方は、ぜひご予約ください。

当院でのご受診をおすすめする理由

完全個室制を導入 (淳風会ロングライフホスピタル)

淳風会ロングライフホスピタルでは完全個室制を導入。専用トイレ付き個室(8部屋)を完備している
ので、前処置のお時間からリラックスして検査をご受診
いただけます。



日本消化器内視鏡学会専門医による診断

経験豊富な専門医とスタッフが互いに連携し、的確で
受診者様への負担が最小限となるような検査を実施し
ています。



医師紹介



一般財団法人 淳風会
医療診療セクター セクター長

春間 賢

- 日本内科学会指導医
- 日本消化器病学会指導医
- 日本消化器内視鏡学会指導医
- 日本消化器がん検診学会指導医
- 日本消化管学会胃腸科認定医
- 日本ヘリコバクター学会 (H. pylori (ピロリ菌) 感染症認定医)
- 日本食道学会食道科認定医
- 日本消化器内視鏡学会理事



淳風会健康管理センター センター長
淳風会ロングライフホスピタル 内視鏡センター長

井上 和彦

- 日本消化器病学会 (学会評議員、指導医、専門医)
- 日本消化器内視鏡学会 (学会評議員、指導医、専門医)
- 日本消化器がん検診学会 (監事、学会評議員、指導医、認定医)
- 日本消化管学会 (代議員、指導医、専門医)
- 日本ヘリコバクター学会 (代議員、H. pylori (ピロリ菌) 感染症認定医)
- 日本がん検診・診断学会 (学会評議員、認定医)
- 日本人間ドック学会 (社員、認定医)
- 胃がんリスクABC分類活用マニュアル 他 著書多数



淳風会健康管理センター倉敷 センター長
淳風会ロングライフホスピタル 消化器内科部長

間部 克裕

- 日本消化器内視鏡学会 (学術評議員、専門医、指導医)
- 日本消化器病学会 (専門医)
- 日本内科学会 (認定医)
- 日本ヘリコバクター学会 (幹事、代議員、H. pylori (ピロリ菌) 感染症認定医)
- 日本消化管学会 (代議員、胃腸専門医、指導医)
- 日本消化器がん検診学会 (代議員、消化器がん検診総合認定医)

がん検査項目

胃がん検査



胃部X線検査と胃内視鏡検査があります。胃部X線検査で異常があれば、胃の内部を直接観察する胃内視鏡検査(p. 29参照)を行います。この他、ペプシノゲン検査、ヘリコバクター・ピロリ検査など、胃がんリスク検査(p. 24参照)も行われます。

胃がん検査で行われる検査

- 胃部X線検査 ●胃内視鏡検査 ●ペプシノゲン検査 ●ヘリコバクター・ピロリ検査

精密検査で行われる検査

- 胃内視鏡検査(病理組織検査)

肺がん検査



一般健診の肺がん検査では、胸部X線検査が行われます。人間ドックや精密検査では、胸部CT検査(ヘリカルCT)などを追加する場合があります。

肺がん検査で行われる検査

- 胸部X線検査 ●喀痰検査 ●胸部CT検査(ヘリカルCT) ●腫瘍マーカー

精密検査で行われる検査

- 胸部CT検査(ヘリカルCT)

大腸がん検査



大腸がんの検査では、まず便潜血検査を実施し、さらに大腸内視鏡検査が行われます。大腸内視鏡検査では、肛門から内視鏡を挿入し、直腸から盲腸まで大腸全体にがんやポリープや炎症などがないか調べます。1回でも便潜血陽性を指摘された方は、大腸内視鏡検査(p. 29参照)も受けてください。

大腸がん検査で行われる検査

- 大腸内視鏡検査 ●便潜血反応2日法

精密検査で行われる検査

- 大腸内視鏡検査(病理組織検査)

日本人の死因第1位である「がん」を、できるだけ早期に発見するための検査を行います。がんは早期であるほど、治療効果が上がります。

前立腺がん検査



前立腺は、男性の膀胱の出口付近に尿道を取り囲むようにある臓器です。前立腺がん検査では、前立腺がんや前立腺肥大症で上昇する血中PSA検査が行われます。がんの疑いがある場合には、超音波検査や病理組織検査が行われます。

前立腺がん検査で行われる検査

- 前立腺PSA検査

精密検査で行われる検査

- (経直腸)超音波検査 ●病理組織検査

PSA検査とは?

PSA検査は、前立腺疾患があるかどうか調べる検査です。PSAは、前立腺から分泌される特有のたんぱく質の1種で、精子の運動性を高める役割があります。前立腺に異常があると血液中にPSAが漏れ出すため、血液検査で検出できます。PSAは射精後や長時間の自転車運転後は高くなるので、検査2日くらい前から控えてください。

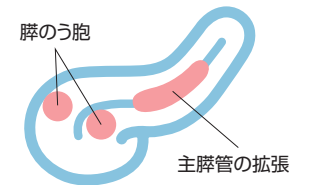
すい臓がんリスク検査



すい臓がんは、かなり進行した状態でも自覚症状が乏しく、発見が遅れがちです。通常の健診や人間ドックなどでも早期発見が難しく、診断された時点では手術が難しいことも多いがんです。発見が難しいすい臓がんは、そのリスクとなる所見を見つけることが大切です。すい臓がんの多くは膵液が流れる管である「膵管」に発生します。診断の契機として軽微な主膵管の拡張や膵のう胞性病変が重要です。膵管の拡張、膵のう胞をMRI(MRCP:膵管造影検査)や超音波検査によって調べます。

すい臓がんリスク検査で行われる検査

- 腹部MRI(MRCP)検査 ●腫瘍マーカー ●超音波検査



腫瘍マーカー



がんができると、健康な時には見られない特殊なたんぱく質や酵素、ホルモンなどが血液や尿中に異常に増えてきます。腫瘍マーカー検査はこれらの物質が血液や尿中にどれくらい含まれているかを調べ、がんの経過や再発の確認などを行う検査です。臓器特有のものとそうでないものがあるため、いくつかを組み合わせを行い、診断の手がかりとします。残念ながら、PSA以外の腫瘍マーカーによるがんの早期発見は困難です。腫瘍マーカーが高くないのがんはないとは言いきれず、腫瘍マーカーが下がったけれど再び上昇したという場合は再発の疑いがあります。

がん検査項目

乳がん検査



乳がん検診では、乳房専用のX線撮影マンモグラフィや超音波検査が行われます。初期の乳がんの発見やスクリーニングにはマンモグラフィが推奨されます。詳しい検査のためには、MRI、CTなどの画像検査や、細い注射針を刺して細胞を採取して病変を調べる穿刺吸引細胞診や病理組織検査が行われます。

乳がん検査で行われる検査

- マンモグラフィ(乳房X線撮影検査) ●超音波検査

精密検査で行われる検査

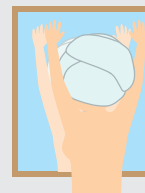
- 超音波検査 ●MRI検査 ●CT検査 ●穿刺吸引細胞診 ●病理組織検査

	マンモグラフィ判定
カテゴリ-1	異常なし。
カテゴリ-2	明らかに良性と診断できる。
カテゴリ-3	良性の可能性が高いが、悪性の可能性も否定できない。追加検査が必要。
カテゴリ-4	悪性の疑いあり。精密検査が必要。
カテゴリ-5	ほぼ乳がんと考えてよい病変あり。精密検査が必要。

乳がん自己チェック

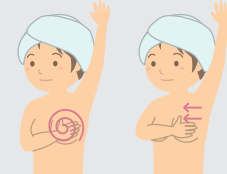
目で見てチェック!

- 両手をおろした楽な姿勢で鏡の前に立ち、乳房の形、大きさ、皮膚のくぼりやくぼみなどを確認する。
- 両手で腰をおさえたり、両手を上げたり姿勢を変えたり、鏡に映す角度を変えて見ると効果的。



手指でさわってチェック!

- 3、4本の指をそろえ、指の腹を小さく動かして滑らせるように、しこりがないか調べる。
- わきの下から乳房に向かって、渦巻きを描くように指を進める。
- 乳房の膨らみの部分だけでなく、上は鎖骨、下は肋骨の弓側の部分まで、内側は胸骨の中央、外側はわきの下までをチェック。
- 左乳房には右手、右乳房には左手を使う。



子宮がん検査



子宮がんには、子宮頸がんと子宮体がんがあり、一般的には問診、内診、細胞診による子宮頸がん検診が行われます。詳しく調べる場合は、コルポスコープを用いて子宮頸部を観察する方法や経膈超音波検査などの画像検査が行われることもあります。

子宮がん検査で行われる検査

- 内診 ●細胞診 ●HPV検査

精密検査で行われる検査

- コルポスコピー ●経膈超音波検査 ●CT検査 ●MRI検査

その他の検査項目

脳梗塞、骨粗しょう症、歯周疾患などの疾患も、早期発見が非常に大切です。ストレスチェックなどメンタルの検査も行われています。

頭部検査



MRI検査、血管の走行がわかるMRA検査や頸動脈超音波検査などの画像診断を中心に、問診も合わせて、より精密に頭部の状態をチェックします。自覚症状のない初期の小さな脳梗塞や、脳卒中の原因となる動脈硬化の進行具合、くも膜下出血の原因となる動脈瘤の有無などの他、その危険因子を早期に発見し、それらの発症、進行の予防を目的に行います。特別な準備も必要なく、身体への負担もほとんどありません。

この検査で疑われる病気

- 脳梗塞、白質病変、脳出血、未破裂脳動脈瘤、脳動脈奇形症、脳腫瘍など

このような方は脳検査をおすすめします!



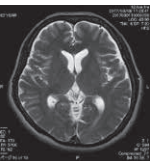
生活習慣病の危険因子がある方



喫煙・飲酒の多い方



ストレスが続いている方...など



診断結果イメージ

血管年齢チェック



四肢の血圧を同時に測定し、手と足の血圧の比較や脈波の伝わり方を調べる血圧脈波検査によって、血管の硬さや動脈硬化の程度を調べます。

この検査でわかること

- 血管の硬さや詰まり具合

この検査で疑われる病気

- 動脈硬化、心筋梗塞、狭心症、脳梗塞、脳血栓など

骨密度測定検査



骨密度検査では、20~44歳の骨密度平均値の70%未満で骨粗しょう症と診断され、70~79%で骨量減少となります。骨粗しょう症は、骨の密度が減り、骨がもろくなってしまう病気で、特に女性は、閉経後、女性ホルモンの急激な減少と共に骨量も減少するため要注意です。リウマチなどで経口ステロイド薬を服用しているときも注意が必要です。淳風会健康管理センターでは、受診者の負担軽減を追求し、前腕用の測定装置を導入しています。

この検査で疑われる病気

- 骨粗しょう症



ストレスのない自然な姿勢で測定します。

前腕X線骨密度測定装置



	骨密度検査測定値 (単位: %)
基準範囲	80以上
要注意	70~79 骨量減少
異常	70未満 骨粗しょう症

その他の検査項目

歯周疾患検査



自覚症状の有無、虫歯、歯周病、かみ合わせなど、歯と口腔内の異常をチェックします。また、ブラッシング法や今後の口腔ケアについて指導もいたします。歯を失う原因のほとんどが虫歯と歯周病ですが、最近では歯周病は口の中だけでなく、全身の疾患に悪影響を及ぼすことがわかっています。しかし、初期の歯周病は自覚症状に乏しく、歯茎からの出血などがあるものの痛みはないため、多くの人が放置しがちです。早期発見、早期治療が重要ですので、痛みはなくても定期的に検診を受けるようにしましょう。

この検査で疑われる病気

- 虫歯、歯周病、顎関節症、かみ合わせ異常など

大供クリニック歯科(淳風会健康管理センター内)のご案内

ゆったりとした個室で丁寧な診療が受けられます。

完全個室なので安心して診療を受けることができます。歯周病や虫歯の治療に加え、予防歯科にも力を入れており、虫歯・口臭・咬合力など様々な検査もできます。



ストレスチェック



平成27年12月より、事業者に従業員に対するストレスチェックの実施が義務付けられました(50人未満の事業所は努力義務)。

淳風会健康管理センターは、事業所のストレスチェック制度を活用したメンタルヘルス対策をサポートします。ストレスチェックをご契約いただいている事業所にお勤めの個人に対しては、ストレスチェックの結果に基づいてストレス状況への気付きやセルフケアを促します。事業所に対しては、職場におけるストレス要因を評価し、職場環境の改善につなげることで、メンタルヘルス不調の未然防止や職場の生産性向上を支援します。

※実施は事業所単位となっており、個人単位でのサービス提供は行っていません。

この検査で疑われる病気

- うつ病、不安障害、不眠症、ストレス関連の心身の病気など

淳風会健康管理センター ストレスチェック関連サービス

- 📄 専門家による解説・コンサルテーション
- 📄 必要資料のご提供
- 🔄 実施体制から計画づくりまで業務サポート
- 🗨️ 事業者を通さずに相談できる窓口の設置
- 👥 各種研修・ワークショップの実施

脳梗塞、骨粗しょう症、歯周疾患などの疾患も、早期発見が非常に大切です。ストレスチェックなどメンタルの検査も行われています。

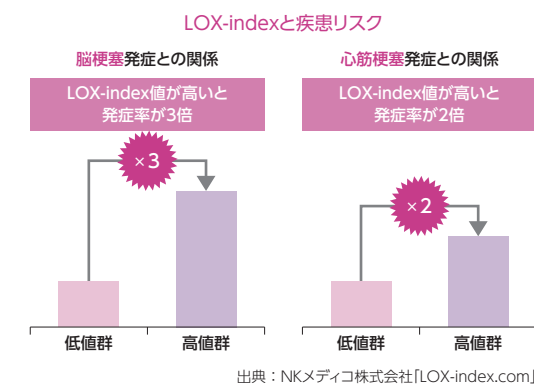
LOX-index



LOX-indexは、血液検査によって、脳梗塞・心筋梗塞について今までできなかった将来の発症リスクを評価する最新の指標です。30~79歳の男女2,437人を対象とした平均11年間の追跡研究結果がベースになっており、LOX-index値が今後10年以内の脳梗塞・心筋梗塞発症率に大きく関与することがわかりました。LOX-indexでご自身の脳梗塞・心筋梗塞の将来的な発症リスクを知り、予防しましょう。

この検査でわかること

- 将来の脳梗塞、心筋梗塞の発症リスク



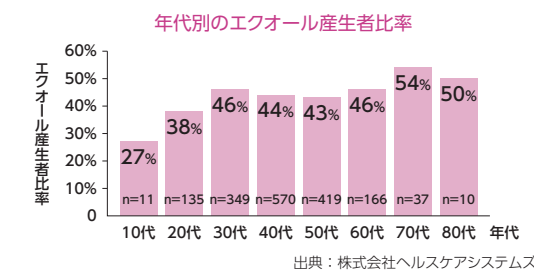
エクオール検査



更年期、月経周期によるホルモンバランスの乱れには、大豆イソフラボンの代謝物である「エクオール」が深く関係しています。「エクオール」は女性ホルモンと似た働きをし、シワの軽減・更年期症状の緩和・骨密度の維持など、健康と美容に良い効果があるとされています。エクオール検査では、理想的な量の「エクオール」が作られているかを尿で測定し、「今」の自分の体質と「これから」の食事や生活習慣の対策が分かります。

この検査でわかること

- 更年期症状などホルモンバランスの乱れの対策



日本人は2人が1人がエクオールを作れないと言われており、豆類の摂取量が深く関係していると考えられています。食生活の変化により若い人ほど豆類摂取量が少ない傾向にあります。

腸内フローラ検査



腸内フローラとは、多種類の微生物が腸内で花畑(フローラ)のように主に大腸に分布している様子から呼ばれた言葉です。腸内微生物は健康や長寿に大きく関係しています。健康に気を配っている方、お通じやお腹の調子に不安のある方、腸内環境を意識されている方におすすめの便の検査で、腸内フローラの状態を検査し、生活習慣や食生活を見直します。

この検査でわかること

- 腸内細菌の割合、菌の多様性、菌叢スコア、太りやすさなど

基準値一覧

	項目	基準範囲	要注意	異常	
基本的な検査	腹囲 (cm)	男性	85cm未満	85cm以上	
		女性	90cm未満	90cm以上	
	BMI	18.5~24.9	25以上		
	血圧 (mmHg)	収縮期	100~129	99以下 130~159	160以上
		拡張期	1~84	85~99	100以上
	聴力 (dB)	1000Hz(30dB) 4000Hz(40dB)	両方聞こえる	どちらか一方もしくはどちらも聞こえない	
視力		1.0以上	0.7~0.9	0.6以下	
血液検査	総コレステロール (mg/dL)	140~199	120~139 200~219	119以下 220以上	
	中性脂肪 (mg/dL)	30~149	150~299	29以下 300以上	
	HDLコレステロール (mg/dL)	40以上	35~39	34以下	
	nonHDLコレステロール(mg/dL)	90~149	150~169	89以下 170以上	
	LDLコレステロール (mg/dL)	60~119	120~139	59以下 140以上	
	空腹時血糖 (mg/dL)		99以下	100~125	126以上
	HbA1c (%)		5.5以下	5.6~6.4	6.5以上
	総たんぱく量 (g/dL)		6.5~7.9	6.2~6.4 8.0~8.3	6.1以下 8.4以上
	アルブミン (g/dL)		3.9以上	3.7~3.8	3.6以下
	AST[GOT] (U/L)		30以下	31~50	51以上
	ALT[GPT] (U/L)		30以下	31~50	51以上
	γ-GTP (U/L)		50以下	51~100	101以上
	ALP (U/L)		38~113	37以下 114~139	140以上
	総ビリルビン (mg/dL)		0.2~1.2	0.1以下 1.3~2.5	2.6以上
	乳酸脱水素酵素[LDH] (U/L)		124~222	123以下 223~246	247以上
	コリンエステラーゼ[ChE] (U/L)	男性	240~486	239以下 487~547	548以上
		女性	201~421	200以下 422~475	476以上
	アミラーゼ (U/L)		44~132	43以下 133~153	154以上
	クレアチニン (mg/dL)	男性	0.40~1.00	0.39以下 1.01~1.29	1.30以上
		女性	0.40~0.70	0.39以下 0.71~0.99	1.00以上
	尿素窒素 (mg/dL)		7~24.9	6.9以下 25.0~25.9	26.0以上
	eGFR (mL/分/1.73m)		60.0以上	45.0~59.9	44.9以下
	尿酸 (mg/dL)		2.1~7.0	2.0以下 7.1~7.9	8.0以上
	甲状腺ホルモン	FT4 (ng/mL)	0.70~1.48	0.51~0.69 1.49~1.67	0.5以下 1.68以上
		FT3 (pg/mL)	1.68~3.67	1.22~1.67 3.68~4.20	1.21以下 4.21以上
	赤血球数 (万/μL)	男性	410~550	370~409 551~629	369以下 630以上
		女性	370~500	340~369 501~569	339以下 570以上
	ヘモグロビン (g/dL)	男性	13.1~16.3	12.6~13.0 16.4~18.0	12.5以下 18.1以上
		女性	12.1~14.5	11.6~12.0 14.6~16.0	11.5以下 16.1以上
	血清鉄[Fe] (μg/dL)	男性	72~165	70~71 166~199	69以下 200以上
		女性	54~145	50~53 146~179	49以下 180以上
	ヘマトクリット (%)	男性	40.0~50.9	37.0~39.9 51.0~59.9	36.9以下 60.0以上
女性		35.0~45.9	33.0~34.9 46.0~54.9	32.9以下 55.0以上	
白血球数 (個)		3,100~8,499	8,500~9,999	3,099以下 10,000以上	
血小板数(万/μL)		14.5~32.9	12.3~14.4 33.0~39.9	12.2以下 40.0以上	
好中球 (%)		40~75		39.9以下 75.1以上	
好酸球 (%)		0~8.0		8.1以上	
好塩基球 (%)		0~3.9		4.0以上	
単球 (%)		0~12.4		12.5以上	
リンパ球 (%)		19.6~55.4		19.5以下 55.5以上	
MCV (fL)		84~98		83以下 99以上	
MCH (pg)		26~35		25以下 36以上	
MCHC (%)		31~37		30以下 38以上	
CRP (mg/dL)		0~0.30	0.31~0.50	0.51以上	
RF定量 (U/mL)		0~15		16以上	

健康診断と
人間ドックの違い

検査項目
基本的な

検査項目
血液

検査項目
尿便

検査項目
画像

検査項目
消化管内視鏡

検査項目
がん

検査項目
その他の

基準値一覧

Beside You

お一人おひとりに寄り添う。

淳風会健康管理センターは、
「健康づくり・健康維持」を支えるために
健診・検査後のフォローや健康に関する様々な情報提供を通して、
お一人おひとりに寄り添います。

「健康診断」「人間ドック」に関するお問い合わせ

淳風会健康管理センター（岡山市）

予約専用
ダイヤル **050-3163-0002**



〒700-0913 岡山市北区大供2-3-1
<https://junpukai.or.jp/center/>

【受付時間】 平日／8:30～16:30 土曜日／8:30～12:00
【休診日】 日曜日・祝日・指定休日

淳風会健康管理センター 倉敷

予約専用
ダイヤル **086-454-8400**



〒712-8014 倉敷市連島中央3丁目1番19 淳風スクエア
<https://junpukai.or.jp/center-kurashiki/>

【受付時間】 平日／9:00～16:00 土曜日／9:00～11:00
【休診日】 日曜日・祝日・指定休日